

日本産 *Zonitis* 属 2 種の雄交尾器

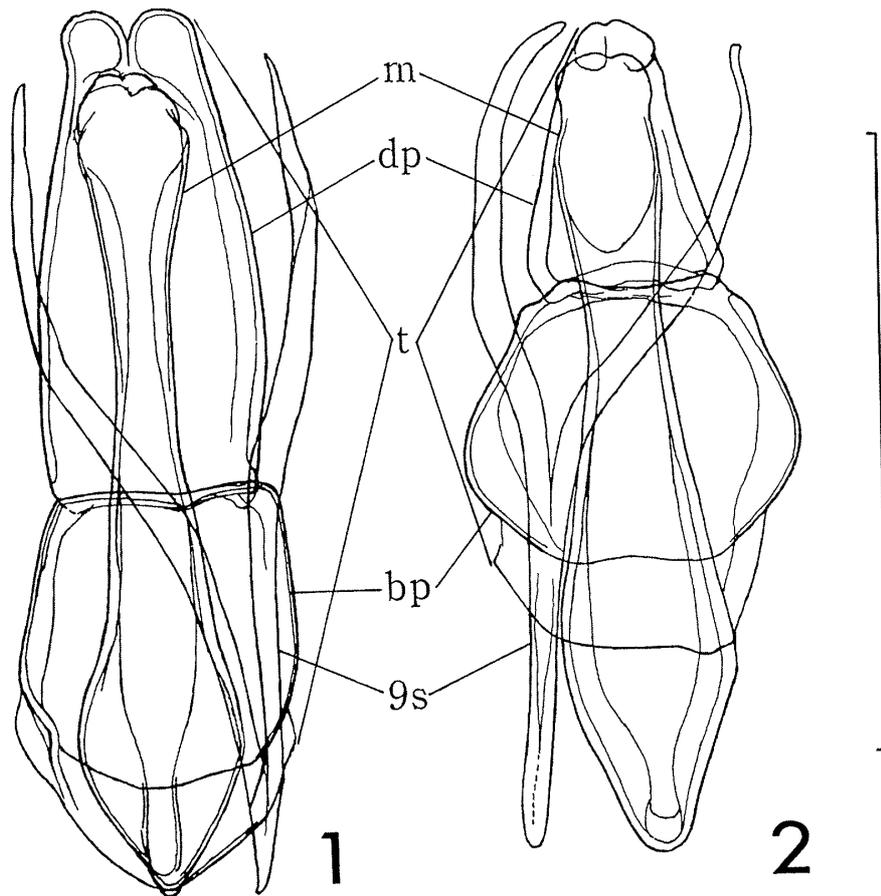
(ツチハンミョウ科の研究-III)

木 船 悌 嗣

Male genitalia of two Japanese species of the genus *Zonitis* (Coleoptera, Meloidae) (Studies on Meloidae-III)

Teiji KIFUNE

日本には 3 種の *Zonitis* が分布するが、そのうち沖縄のオキナワキゲンセイ *Z. okinawensis* (MIWA, 1928) を除く 2 種、キイロゲンセイ *Z. japonica* PIC, 1910 とツマグロキゲンセイ *Z. cothurnata* MARSEUL, 1873 については、外観上明瞭に区別できるものの、同一種の雌雄ではないか



Figs. 1-2. Male genitalia of two Japanese *Zonitis*, dorsal view. — 1. *Zonitis cothurnata* Marseul, 1873. — 2. *Z. japonica* Pic, 1910. Scale: 1 mm. bp: Basal piece of tegmen; dp: distal piece of tegmen; m: median lobe; 9s: 9th abdominal sternite; t: tegmen.

との疑問をもつ人があると聞く。さいわい著者の手もとに、1954年8月に大阪府下高山で採集した両種標本があるので、その中から再度両種の雄を選んで交尾器を観察した。Figs. 1, 2 に示すように、その形にはかなり顕著な差が見られるが、とくに tegmen (t) と腹部第9腹板 (9s) の形の違いが目立つ。側方から見ると、tegmen の distal piece (dp) の形が違い、*cothurnata* ではほぼ扁平で、わずかに中央部がふくらむのに対して、*japonica* では中央部はむしろ凹陷し、鞍状となる。また、tegmen と median lobe (m) の長さの違いも *japonica* においていちじるしい。この交尾器の形からみると、ENNS (1956) の記載した北米産の *Zonitis* と類似するのは *japonica* のほうで、*cothurnata* はむしろ *Pseudozonitis* にやや似ているように思われる。したがってこの2種は、外観から考えられるほど近縁ではないように思われるが、結論を出すためには他の近似種、たとえば *Z. pallida* FABRICIUS などとの交尾器の比較が必要となって来るであろう。*Zonitis* の種の外観からの雌雄の識別は容易でないが、尾端を後下方から見ると、雄ではたいてい第9腹板の先端が2つの小突起状にのぞいているので、辛うじて雌と区別することができる。また、雄は概して小形個体が多い。体の大きさにいちじるしい個体変異が見られるのは、おそらく IWATA (1933) の観察したように、幼虫期における摂食量の多少が影響しているものと思われる。

貴重な助言を賜った鹿児島大学理学部の中根猛彦教授に深く謝意を表する。

文 献

- ENNS, W. R., 1956. A revision of the genera *Nemognatha*, *Zonitis*, and *Pseudozonitis* (Coleoptera, Meloidae) in America north of Mexico with a proposed new genus. *Univ. Kansas Sci. Bull.*, 37: 685-909.
- IWATA, K., 1933. Studies on the nesting habits and parasites of *Megachile sculpturalis* SMITH (Hymenoptera, Megachilidae). *Mushi, Fukuoka*, 6: 4-24.
- KIFUNE, T., 1961. Biological notes on two Japanese species of the genus *Zonitis* FABRICIUS (Coleoptera, Meloidae) (Studies on Meloidae-I). *Ibid.*, 35: 51-61.